

公益社団法人 日本都市計画学会

関西支部 2026年度総会

議案書

2026年4月11日

公益社団法人 日本都市計画学会

議 事

1. 開会の辞

2. 支部長挨拶

3. 議案

(1) 第1号議案 2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動報告について

報告事項1 2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部決算について

(2) 第2号議案 2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動方針について

報告事項2 2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部予算について

(3) 第3号議案 2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部役員選出について

4. 閉会の辞

目 次

【第1号議案資料】2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動報告について

- 1) 幹事会経過報告について
- 2) 都市計画講演会ならびにシンポジウムの開催について
- 3) 都市計画フィールドワークならびにワークショップの開催について
- 4) 会計および会員管理について
- 5) 広報について
- 6) 都市計画研究会活動支援について
- 7) 国際・交流活動について
- 8) 関西まちづくり賞について
- 9) 研究発表会の開催について

【報告事項1】2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部決算について（後日掲載）

【第2号議案資料】2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動方針について

- 1) 主な事業の日程概要について
- 2) 新たな計画課題にむけて多世代・多分野の協働と人材育成につながる支部活動について
- 3) 都市計画講演会及びシンポジウム・都市計画フィールドワークの開催
- 4) 広報について
- 5) 都市計画研究会活動支援について
- 6) 国際・交流活動の推進
- 7) 関西まちづくり賞について
- 8) 研究発表会について

【報告事項2】2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部予算について

【第3号議案資料】2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部役員選出について

- 【資料 1】 公益社団法人日本都市計画学会関西支部規程
- 【資料 2】 公益社団法人日本都市計画学会関西支部運営規則
- 【資料 3】 関西支部会員数
- 【資料 4】 関西支部予算（予算枠）の推移
- 【資料 5】 研究支援「都市計画研究会」の募集 応募要領（2026 年度）
- 【資料 6】 関西まちづくり賞表彰実績
- 【資料 7】 「第 24 回関西支部研究発表会」開催案内および発表の募集
- 【資料 8】 関西支部役員および委員（2026 年 3 月 1 日現在）

【第1号議案資料】

2025年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動報告について

1) 幹事会経過報告について

開催日時		主な議事及び決定事項
第1回 2025. 6. 5	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7.	支部長より本部理事会の報告 研究支援採択案件の確定 委員名簿の確定 WEB 担当者会議実施について 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会からの活動計画の報告 関西まちづくり賞のスケジュール・募集要綱の決定 研究発表会の申し込み状況の報告
第2回 2025. 7. 23	1. 2. 3. 4.	支部長より本部理事会の報告 WEB 担当者会議実施について 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会、関西まちづくり賞委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西支部研究発表会の申し込み状況の報告と開催内容の確認
第3回 2025. 10. 21	1. 2. 3. 4. 5.	支部長より本部理事会の報告 2026年度予算の作業スケジュール周知等 2026年度総会の開催についての方針決定 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西まちづくり賞への応募状況の確認
第4回 2025. 12. 19	1. 2. 3. 4. 5. 6.	2026年度の委員会体制の確認 2026年度事業計画、予算の確認 ピーティックスの活用について 企画委員会、編集・広報委員会、国際・交流委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西まちづくり賞への応募状況の確認 2026年度関西支部研究発表会の開催日の決定
第5回 2026. 1. 21	1. 2. 3. 4. 5.	支部長より本部理事会の報告 2026年度の委員会体制の確認 2025年度執行状況、2026年度事業計画、予算の確認 企画委員会、編集・広報委員会からの活動報告と今後の予定の確認 関西まちづくり賞の表彰対象の決定
第6回 2026. 3. 3	1. 2. 3. 4. 5.	2025年度決算及び2026年度予算の状況報告 2026年度の委員会体制の確認 2026年度総会の開催の調整状況報告と議案書の確認 関西支部研究発表会の方針決定 都市計画研究会の公募の方針決定

参考：【資料1・2】

2) 都市計画講演会ならびにシンポジウムの開催

<講演会>

テ ー マ : 都市と選択 : 企業立地の経済と創造環境

— 関西への副本社誘導とクラスター戦略 —

日 時 : 2026 年 2 月 19 日 (木) 19:00 ~ 20:40

場 所 : オンライン開催 (株式会社地域計画建築研究所大阪事務所から配信)

内 容 : 立地とビルは単なる空間配置の問題ではなく、財務と効率の選好性つまりは人材確保・ブランド・ワーカーの幸福度など、複数の要素を同時に秤にかける企業の選択行動である。都市のマネージメントとして、経済発展の要点として、都市としての新しい産業クラスターの誘導や既存クラスターの伸長を図る政策が必要となる。クラスターを発展させる創造的環境と企業による立地選択の具体的戦略として関西への副本社誘導とクラスター育成・連携を考える講演会を開催した。
講 師 : 大島洋一氏 (大島コンサルティング・オフィス代表)

参 加 者 : 54 人

<シンポジウム>

テ ー マ : 住宅地のコミュニティデザイン—誰からはじめる、どう進める—

日 時 : 2026 年 2 月 4 日 (水) 18:00 ~ 20:40

場 所 : オンライン開催 (株式会社地域計画建築研究所大阪事務所から配信)

内 容 : 少子高齢化とライフスタイルの多様化に伴い、既存の住宅地におけるコミュニティの機能および構造は、その再構築が喫緊の課題として認識されている。多様な主体によって展開されている活動事例を共有するとともに、「誰が」取組の始動を担い、「いかに」持続可能なコミュニティデザインを実現し得るのかについて、その具体的な論点と実践手法を深く考察するシンポジウムを開催した。

基調講演 : 「まちの主(あるじ)達のこれまでとこれから—千里ニュータウンの 30 年から—」

鈴木毅氏 (千里ニュータウン研究・情報センター共同代表)

実践事例 : 「地域資産を「新しいコモンズ」に変える

— 公益信託を活用した自治型社会モデルの構築 —

宝楽睦寛氏 (公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団代表理事)

「市民と行政の協働による活動基盤の創出」

佐伯亮太氏 (播磨町まちづくりアドバイザー/合同会社 Roof 共同代表)

「民間事業者が参画する地域再生」

熊谷一義氏 (パナソニックホームズ株式会社)

パネルディスカッション : 「活動の始動における担い手と活動の持続性を確保するための仕組み」

コーディネーター：鈴木毅氏

パネリスト：宝楽睦寛氏、佐伯亮太氏、熊谷一義氏

参加者：79人

3) 都市計画フィールドワークならびにワークショップの開催

<フィールドワーク①>

テーマ：リノベーションとブランディングによる団地再生

—入居率を58%から95%に引き上げたさのみなと団地の再生の歩み—

日時：2025年9月27日（土）14：00～17：00

場所：さのみなと団地ほか（大阪府泉佐野市）

内容：さのみなと団地は地域に密着した不動産事業を展開する株式会社情報都市が2015年にUR都市機構から買い受けたもので、地域の活性化支援に取り組む株式会社ひとはと連携して再生が進められている。UR団地の民間移管、民間活力による再生の先駆けとなったさのみなと団地のプロジェクト紹介と現地視察を行うフィールドワークを開催した。

講演：「さのみなと団地再生プロジェクト」

株式会社情報都市

「団地の強みを生かすブランディング戦略」

株式会社ひとは

参加者：13名

<フィールドワーク②>

テーマ：神戸ウォーターフロントエリアの官民連携による活用

—国内初のみなと緑地PPP—

日時：2025年12月22日（月）15：00～17：30

場所：神戸ウォーターフロント開発機構、TOTTEI 周辺（神戸市中央区）

内容：かつて港湾機能が集中していた神戸のウォーターフロントエリアでは、2021年にポートミュージアムがオープン、GLION ARENA KOBEが4月にオープンするなど、新しい時代にふさわしい形で再生が進んでいる。神戸のウォーターフロントエリアで取組に関わる方々を迎え、プロジェクト紹介と現地視察を行うフィールドワークを開催した。

講演：「神戸のウォーターフロントエリアについて」

神戸市港湾局

「アリーナ基点での新たな神戸の魅力づくりについて」

株式会社 One Brighth KOBE

「エリアマネジメントに関する取組について」
株式会社神戸ウォーターフロント開発機構

参加者：27名

<ワークショップ>

テーマ：尾崎駅周辺エリアの未来ビジョンを考えるワークショップ
ーエリア価値の向上・滞留が生まれる空間活用の提案ー

日時：1日目：2025年7月19日（土）14：00～17：00

2日目：2025年8月23日（土）14：00～17：00

場所：1日目：阪南市防災コミュニティセンター、尾崎駅周辺

2日目：阪南市役所

内容：阪南市は、大阪都市近郊にありながら山と海が近く、大阪府下では唯一の半自然海岸の浅場が広がるなど、自然環境に恵まれたまちとなっているが、少子高齢化などにより、地域の豊かさと賑わいを維持していくことが課題となっている。阪南市では、将来にわたり、持続可能なまちづくりを進めていくため、市役所や病院、スーパー等が集積する南海線尾崎駅周辺エリアを都市拠点として位置付け、公民が連携して、都市機能の強化や歩いて出かけやすいまちづくりに向けた取組が検討されている。尾崎駅周辺エリアのまちを歩き、地域の資源に触れるとともに、エリアの価値向上・賑わいの創出につながる方策を考える、学生ワークショップを開催した。

参加者：28人（全て学生）

4) 会計および会員管理について

2026年度の予算案の作成、ならびに2025年度の決算書の作成を行った。

5) 広報について

1. 支部だよりの発行

関西支部だより＋（ウェブ版）No. 39をWEB発行した。特集のテーマは「都市経営とまちづくり」「公民連携まちづくり最前線」とし、インタビューや対談記事の公開や、論考の執筆依頼を行った。

<インタビュー>

・廃屋群を活用したエリア再生の取組

：西村周治（西村組）

・暮らしと学びの実験フィールド「ほとりで」

：岩田雅人、中山哲也（UR都市機構）、柴山敬（公立大学法人大阪）

<論考>

- ・行政施策としてのマーケットの可能性
：鈴木美央（龍谷大学 准教授）
- ・土木技師からみる都市史研究－オランダ人土木技師 Mulder による門司港の設計－
：岩本一将（京都工芸繊維大学 助教）

<対談 プロジェクトトーキング>

- ・駅前が担うべきエリアの魅力（天王寺駅エリア）
：石原凌河（龍谷大学）、登根哲生（アール・アイ・エー）、永田賢司（阪急電鉄・都市活力研究所）

2. 本部学会誌「都市計画」に関する企画編集

本部学会誌「都市計画」においては、関西支部の活動報告、都市計画情報の掲載ページ（支部 Topics）に関する企画編集と執筆依頼を行った。

- ・374号 国内初・民間活用によるUR団地の再生と環境整備－2024年度関西まちづくり賞
：中野茂夫（関西支部関西まちづくり賞委員会委員長・大阪公立大学）
- ・375号 2024年度関西支部シンポジウム・震災復興の継承
：森喜彦（関西支部企画委員会副委員長・兵庫県）
- ・376号 共創HUB京都プロジェクト
：深尾昌峰（龍谷大学副学長）
- ・377号 水都大阪ブリッジテラスの取り組み－みんなで取り組む現代版の「町橋」制度づくり
：嘉名光市（大阪公立大学大学院教授・水都大阪ブリッジテラス実行委員長）
- ・378号 暮らしと学びの実験フィールド「ほとりで」がオープン
：中野結香（UR都市機構西日本支社都市再生業務部事業企画課）
- ・379号 学生交流イベント：須磨シーサイドパーク・神戸須磨シーワールド見学会
：赤澤宏樹（兵庫県立大学自然・環境科学研究所兼兵庫県立人と自然の博物館）

6) 都市計画研究会活動支援について

1. 支援を行った都市計画研究会の活動状況等報告会の実施

2025年度総会に併せて、研究支援結果発表会（最終報告3件、中間報告1件）を、対面とオンラインを併用するハイブリッド形式で開催した。また関西支部ウェブサイトにて、2024年度研究助成（最終報告3件、中間報告1件）の報告を行った。

2. 都市計画研究会への活動支援の実施

下記の3件の都市計画研究会に対して助成を行った。

- 新規(1)：まち・ひと・モビ研究会～オールドニュータウンにおける産官学連携交通まちづくりのメタ・デザイン～ (代表者 葉 健人)
- 新規(2)：1928 ビルの100年 (代表者 清山 陽平)
- 継続(1)：繊維問屋街研究体 (代表者 石樽 督和)

7) 国際・交流活動について

・国際・交流活動は、12月4日に、学生向けイベント「須磨シーサイドパーク・神戸須磨シーワールド見学会」を開催した。

8) 関西まちづくり賞について

1. 委員会等の開催記録

- ・第1回委員会(2025年5月27日) 2025年度募集要領の検討等
募集期間(2025年6月11日～9月1日)
- ・第2回委員会(2025年10月2日) 選考方法の検討、現地調査・質問事項の検討
- ・現地調査(2025年10月30日、11月7日、11月10日、11月17日、11月19日、11月20日、12月3日) 応募案件の現地調査(8件)
- ・第3回委員会(2026年1月8日) 現地調査の総括、受賞対象者の選考
- ・第4回委員会(2026年3月19日) 表彰式、プレゼンテーションの段取り

2. 2025年度関西まちづくり賞 表彰

・関西まちづくり賞

成果・実績の名称：『さこすて®みわ地域とともに進める持続的な駅まちづくりの取組—三輪駅と周辺地域での事例—』

受賞者：ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社さこすて®、三輪まちづくり法人株式会社リアライズ、三輪駅地域作戦会議

・関西まちづくり賞（奨励賞）

成果・実績の名称：『ミナミ御堂筋の官民連携・エリアマネジメント～既成市街地の不動産オーナー連合がめざす“世界の御堂筋”～』

受賞者：一般社団法人ミナミ御堂筋の会

・関西まちづくり賞（奨励賞）

成果・実績の名称：『みんながつながるウォータータウン～帰帆島及び中間水路を地域の資源とした新たな水辺の暮らし～』

受賞者：老上西学区まちづくり協議会、立命館大学工学部都市地域デザイン研究室（金度源研究室）、立命館大学工学部都市空間デザイン研究室（阿部俊彦研究室）

・ 関西まちづくり賞（功労賞）

成果・実績の名称：『浜甲子園団地建替事業における都市デザイン、コミュニティデザインのプロセスとその成果』

受賞者：独立行政法人都市再生機構西日本支社、浜甲子園団地デザイン協議会、武庫川女子大学、浜甲子園団地再生協議会、一般社団法人まちなね浜甲子園

・ 関西まちづくり賞（功労賞）

成果・実績の名称：『地域団体が結集した「北新地みらい会議」による北新地の自律的・継続的なまちづくり活動』

受賞者：北新地みらい会議

9) 研究発表会の開催について

2025年7月26日（土）、第23回研究発表会を開催した。大学・行政・企業の若手研究者を中心とした44編の研究発表があり、86名の参加者を得て活発な質疑・討論が行われた。

発表会で選定している奨励賞には、以下の8名の方が選ばれた。

1) 小笠原 楽（大阪公立大学大学院工学研究科）

「市街地再開発事業を用いた再々開発の整備内容と実施プロセスに関する研究」

2) 池田 笙冴（立命館大学大学院工学研究科）

「京都府選定文化的景観の保全に関する研究」

3) 井下 晃介（大阪大学大学院工学研究科）

「都市公園での行為許可申請を体験するワークショップの申請障壁低減効果」

4) 山下 瑠菜（和歌山大学大学院システム工学研究科）

「放置建築物の発生プロセスに関する研究 - 不動産登記簿とインタビュー調査による実態 -」

5) 福本 雄大（大阪公立大学大学院工学研究科）

「神戸市の市街化調整区域における開発規制の緩和による移住促進に関する研究」

6) 島崎 琉佳（立命館大学大学院工学研究科）

「都市利便増進協定を用いた公共空間の管理・運営に関する研究 - 岡崎市・康生通りの取り組みをケーススタディとして -」

7) 藤田 佳太（大阪公立大学大学院工学研究科）

「戎橋筋商店街における店舗構成と商店街振興の取り組みの変遷に関する研究」

8) 山東 美心（大阪公立大学大学院工学研究科）

「大阪都心部における横道景観の評価とそのあり方 - 難波・心齋橋・本町のメインストリートに接続する横道を対象として -」

【報告事項 1】

2025 年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部決算について

(準備中)

【第2号議案資料】

2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部活動方針（案）

1) 主な事業の日程概要

2026年度活動予定表

4～6月	○関西支部総会（4月11日） ○研究支援の募集・締切（総） ○研究発表の募集・締切（研）	○国際都市計画セミナー（国） ○都市計画フィールドワーク （第1回）（企）
7～9月	○研究発表会の開催（研） ○海外都市計画交流会（国） ○国際都市計画セミナー（国） ○関西まちづくり賞募集・締切（ま）	○都市計画ワークショップ（企） ○都市計画フィールドワーク （第2回）（企）
10～12月	○学生イベント（国） ○関西まちづくり賞現地調査（ま）	○都市計画講演会（企） ○支部だよりの発行（編）
1～3月	○関西まちづくり賞選考（ま） ○支部だよりの発行（編）	○都市計画シンポジウム（企）

委員会名称：（総）総務委員会、（企）企画委員会、（編）編集・広報委員会、
（ま）関西まちづくり賞委員会、（研）研究発表委員会、（国）国際・交流委員会

2) 新たな計画課題にむけて多世代・多分野の協働と人材育成につながる支部活動について

支部活動は、会員、賛助会員へのサービスのみならず、多様な地域課題に対して専門的な貢献を果たすために、さらなる活動の活性化、次世代の裾野の拡大を図る必要がある。そのため、以下の実現に努める。

- (1) 関西支部のこれまでの蓄積と成果を踏まえ、出身とする専門分野や関西における主な活動の場の相違、あるいは産官学といった垣根を越えた業際・学際的な人的ネットワークの充実および研究・実践における協働を図る。特に、これからの関西の都市計画分野を支える人材の発掘と育成支援を積極的に行う。
- (2) 支部活動の広報・連絡活動のインフラとしてのビジュアルを強化した新 Web システムのより効果的な運用を通じて、会員はもとより全国に向け関西における都市計画・まちづくりの取り組みを積極的に発信していく。
- (3) 都市計画分野の継続教育（CPD 活動）に資するプログラム（都市計画講演会及びシンポジウム、都市計画フィールドワーク、研究発表会等）をさらに充実して実施する。
- (4) 支部活動の基本である各委員会の運営に関し、若手・中堅層を中心に広く会員の参加を得て活性化を図る。そのために委員公募を積極的に検討する。
- (5) 支部会員数の減少傾向に鑑み、オンラインの活用等も含め関西広く社会ニーズに対応した行事の企画・運営や会員サービスを充実し、学生ならびに自治体・コンサルタント等の都市計画・まちづくり担当者の当学会への関心を高めて、会員増強につなげる。

(6)関連する学協会・業界団体等との関係を深め、イベントの共催・後援などを通じて多様な人材の交流と学習の場を提供する。それらの活動から実践と学術的知見をつなぎ、都市まちづくり分野での産官学のプラットフォームを形成する。

3) 都市計画講演会及びシンポジウム・都市計画フィールドワーク等の開催

人口減少下での持続可能な都市・地域づくりが求められるなか、都市・地域計画に求められる課題や役割が変化している。社会経済の変動を背景に計画分野の新たな動向をとらえ、多様な分野の人が集まり多角的に考える機会を提供する都市計画講演会・シンポジウムならびにフィールドワークを企画・開催する。

これまでも先進的に独自の発想にもとづき展開してきた関西の都市づくりについて知見を深め、地域の環境形成に寄与する情報交流の場となるよう、計画技術の継承発展にとどまらず、計画に関わるテーマについて社会的・経済的・文化的観点から広く取り上げていく。

都市づくりの担い手と出会う、現場で意見交換するなど、参加することの魅力を高める工夫と、会員の関心を広げていくことをめざすとともに、昨年度に引き続き、今年度も学生等幅広い方々の参加を求め、学会への関心を高めるようなフィールドワークやワークショップを開催する。

4) 広報について

「日本都市計画学会関西支部だより」の WEB 発行を通じて、関西を中心とする都市計画・まちづくりに関する論説、話題、事業の紹介等を行う。2025 年度の活動を引き継ぎ、編集・広報委員による取材企画や会員による論考の発表企画、各支部の活動紹介などを進め、広報活動のさらなる充実を図る。

また、本部学会誌「都市計画」に毎号掲載される支部トピックスの企画編集を行い、関西のまちづくりや都市計画に関する情報を全国に発信する。

5) 都市計画研究会活動支援について

2025 年度から継続する 2 件の都市計画研究会への活動支援に加えて、「都市計画研究会活動支援に関する要綱」に従い、新規 2 件の支援を行う。

参考：【資料 5】

6) 国際・交流活動の推進

都市計画に関心を持つ学生と社会人とが交流し情報交換を持つ場として「都市計画・アーバンデザインの仕事をたずねる」あるいは「関西のまちづくりの現場見学会」を実施する。また、近年、海外の都市計画の実務や研究経験を有する人が増えており、その方々の経験を共有する場として、まちづくり・都市計画実務者向けの「国際都市計画セミナー」を開催する。さらに、新型コロナウイルスの影響で停滞していた国際交流の再活性化を図るため、海外諸都市にて現地開催する「海外都市計画交流会」についても、具体的に検討・実施することを目指す。

以上により、都市計画専門家、学生及び留学生、社会人等との人的ネットワーク形成を推進し、新規会員の獲得へつなげる。

7) 関西まちづくり賞について

関西で実施された地域まちづくり活動や空間整備又は制度づくりや計画策定で、優れた成果・実績・効果があるものについて、広く募集・推薦を求め、関西まちづくり賞の表彰を行う。

そのため、関西まちづくり賞の趣旨をわかりやすく発信し、できるだけ多くの応募・推薦を集める努力を行う。

賞の選考に当たっては、応募者ヒアリングや現地調査を実施し、十分に議論する等、公正な審査を行う。選考された地域まちづくり活動等は、関西における優れた成果・実績・効果であるとして表彰するとともに、その内容や評価したポイント等を情報発信する。

2027年度が30回目の募集となるため、2026年に関西まちづくり賞顕彰要綱の見直しを検討するなど、関西まちづくり賞のあり方について検討を行う。

参考【資料6】

8) 研究発表会について

2026年度第24回関西支部研究発表会を、7月25日（土）大阪公立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル6階）にて開催する。投稿および発表会への参加については、大学等の教育研究機関関係者だけではなく、広く、行政関係者・民間企業・コンサルタント関係者等、都市計画の第一線で活躍されている方々の参加を歓迎する。

なお、今年度の投稿申込締切は、5月20日（水）、原稿提出締切は6月15日（月）を予定している。応募方法や原稿執筆要領等の詳細は、支部ホームページに掲載している。

参考：【資料7】

【報告事項2】

2026年度公益社団法人日本都市計画学会関西支部予算について

令和8年度日本都市計画学会関西支部 収支予算書

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

(単位:円)

大科目	中科目	令和8年度 予算額(a)	令和7年度 予算額(b)	差異(a)-(b)	備考
I. 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 事業収入		270,000	210,000	60,000	
	講習会収入	60,000	20,000	40,000	
	発表会参加費収入	210,000	190,000	20,000	
② 寄付金収入	寄付金収入	0	0	0	
③ 雑収入	雑収入	0	0	0	
事業活動収入計		270,000	210,000	60,000	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出		2,183,000	2,127,501	41,499	
	臨時雇賃金支出	120,000	120,000	0	
	会議費支出	0	0	0	
	旅費交通費支出	244,000	244,000	0	
	通信運搬費支出	56,000	56,000	0	
	消耗品費支出	16,000	16,000	0	
	印刷製本費支出	4,000	4,000	0	
	コンピュータ費支出	55,000	55,000	0	
	賃借料支出	118,500	109,500	9,000	
	保険料	14,000	14,000	0	
	諸謝金支出	374,500	361,251	360,500	
	助成金支出	400,000	380,000	38,749	
	委託費支出	711,000	721,750	331,000	
	表彰費支出	70,000	46,000	△ 651,750	
	雑費支出	0	0	△ 46,000	
② 管理費支出		45,000	50,499	△ 5,499	
	旅費交通費支出	5,000	5,000	0	
	通信運搬費支出	5,000	5,000	0	
	消耗品費支出	0	499	△ 499	
	印刷製本費支出	5,000	10,000	△ 5,000	
	賃借料支出	30,000	30,000	0	
事業活動支出計		2,228,000	2,178,000	36,000	
事業活動収支差額		△ 1,958,000	△ 1,968,000	24,000	
3. 特定費用準備支出	支部40周年記念事業	100,000	100,000	0	
総支出計		2,328,000	2,278,000	36,000	
総収支差額		△ 2,058,000	△ 2,068,000	24,000	

【第3号議案資料】

2026年度 日本都市計画関西支部 役員選出について（案）

支部長（候補者）	加我 宏之	大阪公立大学
副支部長（候補者）	泉 英明	ハートビートプラン
副支部長（候補者）	岡井 有佳	立命館大学
副支部長（候補者）	田中 利光	阪神国際港湾株式会社

【幹事 新任】

総務副委員長（総務担当）	中井 翔太	地域計画建築研究所
企画副委員長	十倉 哲平	京都市
編集・広報委員長	杉浦 啓太	茨木市
編集・広報副委員長	鈴木 美央	龍谷大学

【幹事 留任】

総務委員長	西江 誠	大阪市
総務副委員長（会計担当）	鷺尾 真弓	神戸市
企画委員長	熊谷 樹一郎	摂南大学
企画副委員長	山北 知	ランドブレイン
国際・交流委員長	赤澤 宏樹	兵庫県立大学
国際・交流副委員長	石原 凌河	龍谷大学
研究発表委員長	清水 裕子	畿央大学
研究発表副委員長	阿久井 康平	大阪公立大学
研究発表副委員長	中野 光治	地域未来研究所
関西まちづくり賞委員長	阿部 俊彦	立命館大学
関西まちづくり賞副委員長	臼田 利之	大阪経済大学
関西まちづくり賞副委員長	佐藤 友彦	京都市